

## 社会保障の二面性と弁証の必要性について

埼玉県立芸術総合高等学校

三年 三浦 美咲

私は、国債費を除いた一般歳出として最も多い支出、「社会保障」こそ、税金の意義であると考えます。

社会保障には、私たちの生活インフラを整え、多くの人々の生活を支える役割があります。また、生活に金銭的補助が必要な場合、とても大きな支えとなります。

私自身、ひとり親家庭で育ってきたため、たくさんの場面で助けられてきました。社会保障の制度、所得の再分配機能がなかったら今、どんな生活をしているのか想像もつきません。さらに、老後の介護についても大きな力になると感じています。祖母の介護が始まってから、訪問看護の方やハウスキーパーの方々に大変お世話になっていきます。しかし、利用料金はかなり低く、保険や社会保障給付費の制度に助けられていることを知りました。介護される本人の安心にも、介護をする家族の負担を減らすことにも繋がるありがたい制度であると身に染みて感じています。

しかし、急激な少子高齢化が進む日本において、社会保障給付費の増大は逃れられない事実となります。もちろん、社会保障制度を整えて、国民を助けることには大義があると思います。ですが、その社会保障にかかる税金が膨張し、逆に、国民の首を

絞めるようになってきていると感じることも多いです。

多くの国債を抱えながらも、社会保障で守らなければならぬ国民が増えている日本で、何か解決策はないのか。ニュースやテレビで度々耳にする話題ですが、私が最も効果的だと考えているのは、救急車の有料化及び、いたずら通報の罰金化等の「本来に必要な場合のみ社会保障に適応する」ということです。

現在、一部の自治体では、緊急通報の件数増大や財政の面から、救急車の有料化が導入され始めているようです。多くの人々に議論されるこの話題には、もちろんメリットだけがある訳ではありません。命の線引きが発生したり、必要・不必要の判断が難しいという点でも議論の余地が大いにあります。しかし、判断に迷ったら#9119や#9110を利用するという手段もあります。

できる・できないの二極化するのではなく、弁証をくり返して答えを出していくことが求められると考えます。

このような方法で、今ある社会保障は本当に必要なのか、必要でない場合、どのように対応していけば社会的にも、財政的にも破綻が少なくなるのかを考え、一人一人が意見を持った上で、より良い税への対し方を導いていけたら良いと思います。